

第3回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

1. 日 時 令和5年3月10日（木）14:00～16:15
2. 場 所 印西市役所別館1階 農業委員会会議室
3. 出席委員 ◎高橋克委員、○榎美香委員、西山純子委員、三石宏委員、早川博史委員
伊藤哲之委員、西田裕子委員、岸上誠委員、本田正幸委員
（◎委員長、○副委員長）
4. 欠席委員 なし
5. 事務局 印西市教育委員会生涯学習課 鈴木課長、石川係長、根本主任学芸員
6. 傍聴人 なし
7. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 会議録署名委員の指名
 - 3 議事
 - （1）本施設の基本方針の検討
 - （2）市民意識調査実施計画の検討
 - 4 閉会

8. 会議録

- 1 開会
- 2 会議録署名委員の指名

委員長 : 三石宏委員を指名する。

3 議事

- （1）本施設の基本方針の検討

◆基本理念の検討

事務局 : ※資料1-1について説明

委員 : 「郷土の歴史・文化と人をつなぐ」とはどのようなイメージか。「交流拠点」とあるが、交流施設の整備ではないのではないか。

「未来創造ミュージアム」の<ミュージアム>と<博物館>では意味合いが違うのか。<ミュージアム>には美術館や科学館も含むのか教えてほしい。

事務局 : 「つなぐ」のイメージとは、新しい歴史文化施設を通して印旛沼、手賀沼、利根川の水と下総台地がつくりだした印西の歴史と文化を、今ここに暮らしている人々をつなぎたいというイメージである。

「交流拠点」とは、博物館をイメージしているが、多くの市民に来館してほしいため、歴史資料を核に印西市の人々が気軽に様々な交流を行うような拠点をイメージしている。

前回委員会でもご意見のあった「交流拠点」という文言を前面に押し出した。資料の収集・保管も大切だが、それを使って印西の人々が交流できる拠点にしたいという思いを込めた。

「ミュージアム」については、メインは歴史資料ではあるが、その他に美術資料や自然資料も含めて、様々なモノを1つの施設に展示したいという思いを込めて、「ミュージアム」としている。

委員 : 「郷土の歴史・文化や人をつなぐ」としたほうが、広がりが出るのではないか。歴史文化資料を紹介し、理解者を育むというのは当たり前のことである。

人と人をつなぐことについては特に反対はしない。

「交流」となると人やモノや情報が相互に交わり、単純に人のみの交わりではないので、そういうことも書き込んでおいたほうがよい。どちらかというところ「創造拠点」のほうがあっているような気がするが、よいのではないか。

- 委員 : この基本理念案でよいと思う。解説文をもう少し肉付けしてほしい。
- 委員 : 基本理念はどのくらいの世代の人まで理解できればよいというイメージか。
- 事務局 : 平たく言うと、一般ということになる。
- 委員 : 基本理念案には言いたいことがすべて盛り込まれていて、少し長いような気がする。基本理念はわかりやすく、もう少し言葉をまとめ、解説を読んで理解するようにするとよい。
- 委員 : 基本理念がベースになるかとは思いますが、今後会議を重ねるうちに具体的な施設の全体像が見えてくる。その際に、再度基本理念の表現を再確認してもよいのではないか。今の時点できっちりと決め切るものではなくてもよいのではないか。
- 委員 : 「つなぐ」と「交流拠点」が重複しているというご発言があったが、たしかに同じような意味合いが2つ重なっている。むしろ修正案にあった「守り伝える」が抜けてしまっている。「歴史・文化を守り伝え」にするなど、「まもる」の部分も入れていただきたい。
また、基本理念としては長い気がしている。自然・歴史・文化だったら、自然の部分 구체적인になり、そのほうが新住民の方にもこの土地がイメージできてよいかとも思うが、やはり少し長い。
- 委員 : 「歴史・文化」の間に「・」がある。パッと見た時にそこ（・）で切れてしまい、歴史と文化が離れてしまうイメージがある。「歴史文化」とするか、「・」を入れるなら鍵括弧で括るなどしてはどうか。
- 委員 : 古い言い方だと「風土」がある。生活から歴史から全部含む言葉である。「郷土の風土」とまとめてもよいのではないか。解説文で、「風土とは歴史・文化、人の営み」などと入れていくとよい。
解説文には「学び合い」とあるので、基本理念は「つなぐ」ではなく「学び」でもよいのではないか。博物館は学習の場であるので、「学ぶ」という言葉を大事にして、入れておいたほうがよい。
- 事務局 : まずは検討させていただく。

◆事業活動方針の検討

- 事務局 : ※資料 1-2 P.8-11 について説明
- 委員 : 基本理念の基本的な部分をご了解いただいていることを前提として、不足している点、不要な点などをご指摘いただきたい。
- 委員 : 「多様な人々」の「多様」という言葉は広く使われている言葉か。
- 委員長 : 「生物多様性」という言葉が言われるようになって、いろいろな場面で「多様」という言葉を使うようになってきている。
- 委員 : あえて言う必要があるのかと思った。
- 事務局 : 資料説明について補足する。これまでの会議のご意見をふまえて、事業活動方針（案）を作成している。これから、庁内外に向けて説明をしていくに際し、基本理念については言葉足らずで伝わらないこともあるかと思い、少し長めの説明的な基本理念となっている。用語等については、今後検討も必要かと思うが、これまでの委員意見をふまえて作成したのが基本理念案であることはご理解いただきたい。
- 委員 : P.8 の「学ぶ」、「楽しむ」、「輝く」の表示の仕方について、円が重なり合うようなデザインとしてはどうか。目を引くようなデザインにできないか。

- 事務局 : P.8 をもう少しインパクトのあるデザインへ修正を検討する。
- 委員 : 先ほどの意見と同様だが、P.10 もビジュアル化されているので、P.8 事業活動方針も同じようにビジュアル化されているとよい。
- 委員 : 施設開館時には、ボランティアの受け入れが必要になってくると思うが、基本計画の中には触れなくてよいのか。
- 事務局 : P.11 に高齢者の利用イメージに「ミュージアムボランティア」と記載している。
- 委員 : 高齢者に限定せず、博物館の運営はボランティアを抜きにしては考えられない状況である。あらかじめ想定したほうがよい。
- 事務局 : 検討する。
- 委員 : P.9 事業活動の考え方を一般にもわかりやすい表現にできないか。たとえば、「B 収集・保存」は「あつめる・まもる・つたえる」というような柔らかい表現に変えてもよいのではないか。「D 展示・公開」、「E 学習・創造支援」についても、基本理念や活動方針で使っているような、わかりやすい、かみ砕いた表現、ひらがなで書けるくらいの表現にしたほうがよい。見出しは表現の平易さを揃え、見出しの下に「収集・保存」などの言葉でより深く説明すればよい。
- 委員 : アルファベットの見出しは次の P.10 とも関係してくるので、どうなのか。
- 事務局 : イメージとしては、たとえば「A であい・交流」の前にもっと柔らかい表現で見出しをつけるということか。
- 委員 : 「であい」はよいと思う。たとえば「B 収集・保存」なら「あつめる・まもる・つたえる」、「C 調査・研究」なら「しらべる・さがす」はどうか。後ろに「収集・保存」とあってもよいし、下の説明の中で理解してもらえればよい。
- 事務局 : 基本的にはこの考え方でよいということで進めるが、表現は検討する。
- 委員 : もし事業活動を簡単な言葉にすると、活動方針と事業活動の関係性、どう連動しているのかがわかりにくい。「学ぶ」「楽しむ」「輝く」の細かい内容がいろいろな箇所に散りばめられているので、その関係性を整理して、連動していることがわかるようビジュアル化ができるとよい。
- 委員 : P.8 の「楽しむ」に「交流する機会やつながるきっかけ」が別々のものとして記載されているが、同じ場面のような気がする。基本理念に「交流拠点」と記載するなら、ここの説明文は「多様な人々が交流し、ふるさと印西の・・・」というように、「つなぐ」と「交流」することは違うということを説明文で表現するとよい。説明文は少し長くなってもよいのではないか。
- 事務局 : 「解説文を肉付けしてわかりやすく」というご意見もいただいているので、解説文としてわかりやすく表現を見直す。
- 委員 : P.10 「多様な人や組織と連動した事業展開」とあるが、「多様な人々」の中に自分はどこに入るのか、どこにも入らないのではないかという思いがある。一般的に多い層は単身者の働く人たちだが、ビジネスマンには入らないだろうと思った。このように図示する必要があるのか。「多様性」に関心が集まっている昨今、指摘を受けやすいのではないか。
- 事務局 : 基本理念にも謳っているように、交流拠点としてみんなをつなぐということで、イメージとしてはすべての人が含まれる。該当しないという人もいるかもしれないが、代表的なものを挙げている。
- 委員 : すごく難しいということはよくわかるが、「多様性」について世間が厳しくなってきたので、気をつけなくてはいけない。
- 委員 : これは市民という意味なのか。
- 事務局 : 市民がメインではあるが、市外の方、国外の方も含めて全員を含めたい。

- 委員 : 前回の委員会資料の図だと、これの上に「観光客」があった。市民の半円の周りに、「観光客」はよくないと思うが、「市外の方々」などと記載してはどうか。大雑把にしておいたほうがよい。
- 事務局 : 明確な回答はすぐには出てこないが、施設を利用する人の対象者を挙げたい。
- 委員 : 庁内の説明にはもちろんよいと思うが、一般の人が見た時には違和感があるかもしれない。例を挙げていることは理解しているが、細かく挙げれば挙げるほどそこからこぼれ落ちる人がイメージされてしまう。
- 事務局 : 対象者を主なイメージで挙げることは支障ないと思う。注釈、表現を変えて、これから公開していくにあたり誤解のないかたちで計画をまとめればよいと了解した。
- 委員 : 事務局で調整していただくようお願いする。
- 事務局 : ※資料説明 1-2 全体説明
- 委員 : P.5 のアンダーラインは特別な意味があるのか。その下に<主な課題>が 4 点並べてあるが、それは①～③を通しての課題なのか、それとも③の課題なのか。
- 事務局 : <主な課題>は全体の課題である。今回、歴史文化施設を設置する理由として一番重要な点なので、アンダーラインを引いている。
- 委員 : 前回委員会の宿題として、既存の資料館に現状の課題について意見を聞くということだったが、それは反映されているか。
- 事務局 : 先日各館に資料を配布してご検討いただき、共通理解はしている。課題について指摘はなく、各館の資料数などは細かくご指摘いただき、修正している。
- 委員 : 中間報告は市民に発信するのか。
- 事務局 : まだ公表はしない。基本計画の素案ができた段階でパブリックコメントを行う。

(2) 市民意識調査実施計画の検討

- 事務局 : ※資料 2 について説明
- 委員 : P.4 の Q3 「1 つだけお選びください。」とあるが、1 つにした理由はあるか。
- 事務局 : 書き方が悪いかもしれない。各項目につき、1 つ選んでくださいという意味である。
- 委員 : 「1, 2, 3 から 1 つお選びください」としてはどうか。
- 事務局 : 修正する。
- 委員 : Q3 は回答者が知りたいことを聞いているが、知ってほしい、PR したいという歴史文化資源を聞きたい。
- 事務局 : 「歴史・文化に関するもので、あなたが発信したいものがあればご記入ください。」というような質問にし、回答は自由記述にする。Q3-4 とする。
- 委員 : Q3-1 の歴史文化資源の名称は読み仮名を入れてほしい。
- 委員 : Q1-4 居住年数は 10 年以内の方はわかると思うが、西暦で何年頃から居住と書いてもらったほうが答えやすいのではないか。
Q1-5 は居住形態を回答してもらったほうがよいのではないか。
Q1-6 展示施設はどこの範囲を示しているのか。印西市内の博物館・資料館だけなのか、全般的に博物館・資料館なのかわかりづらい。たぶん下の Q2-1 に市内の展示施設があるので、市内だと解釈するが。
- 事務局 : Q1-6 はあくまでも全体の博物館、資料館である。Q2 は印西市内の展示施設について質問しており、ギャップを測れればと考えた。

- 委員 : Q1-6 に美術館は入れなくてもよいのか。質問する側の意図による。何のデータをもらいたいのか。
- 事務局 : 美術館も入れる。
- 委員 : 「博物館・資料館を訪れるか」という質問が入ることで、普段まったく行かない人の啓発にもつながる。
- 事務局 : 興味のない人たちにどうやったら来てもらえるか、どういう施設にするべきかを考えていく。
- 委員 : Q4-3 備えてほしい施設機能にミュージアムショップを入れてはどうか。美術館では、撮影できるスポットを求める声が多い。また、自由記述で「あなたの好きな博物館を教えてください」という質問をすると、どのようなものが求められているかが見えてくる。
- 事務局 : 検討する。
- 委員 : Q3-2 ふるさとを「感じる」と回答した人にも「どういう点ですか?」と聞いてはどうか。一言書くスペースを設けておくと、参考になる言葉が出てくるかもしれない。
- 委員 : Q3-2 「ふるさと」と感じるかという設問で、アンケートで出てきた回答をどうまとめて意味付けをしようとしているのか。「ふるさと」をどう捉えるかで差が出てくる。
- 事務局 : Q4-1 重視すべき事柄に、「子どもが中で遊べる、子どもが来れる」という記述がどこかにあったと思うが、たとえばアミューズメント要素を、あくまで博物館要素としての取組みとして盛り込んでもよいのではないか。
- 事務局 : ふるさと意識の醸成に歴史文化施設を使いたいという思いがあるので、「ふるさと」を思っしてほしいというのが前提である。実際には歴史・文化がふるさとを感じる要素となっている人と、なっていない人がいる。「ふるさと」を感じている人にはさらに歴史を知ってもらう。感じていない人にはなぜ感じてないか理由を確認して、そこを歴史・文化の方面からケアをして「ふるさと」として愛着を持ってもらうという意図がある。先ほどのご意見のように、感じている方にも理由を聞くようにする。
- 委員 : 「ふるさと」の捉え方は回答者によっても差が出てくるのではないか。どうやって結論付けるのか。
- 事務局 : 「ふるさと」と感じるかと問うから難しくなってしまうのかもしれない。「印西市に愛着はありますか」はどうか。
- 委員 : 「良さを感じる時」など、簡単なことでよいという気がする。選択肢から複数回答にすればよいのではないか。
- 事務局 : 歴史・文化だけでなく、日常生活の中で働き甲斐がある、地域の人と仲良く過ごしている、などということも入れておけばよいのではないか。
- 事務局 : とりあえず「感じる」には感じる理由を追加する。「感じない」理由はこのままで、「感じる」理由にはふるさと以外のもの追加する。表現は変える可能性はあるが、質問は選択肢を足して、確認していただく。「愛着」という言葉にしてもよい。
- 委員 : 資料 1-2 の P8-9 の事業活動の項目に沿って具体的に、何に興味を持って、何の整備に期待されているのかを聞くとよいのではないか。
- 事務局 : A-G 全部ではないが、Q4-1 が傾向をつかむ設問になっている。かみ合うところがあるか検討したい。
- 委員 : Q4-3 備えてほしい施設機能があるが、空間的にもう少し広く捉え、併設施設も含めてもらえるとうい。
- 委員 : 施設が発展していくためには集客が望まれ、周囲の施設は非常に重要である。人が集まれるような場所を最初から目論んでつくっていったらと思う。
- 委員 : 重要文化財を展示するためには、火を使う施設を同じ建物内には置けない。

- 委員 : 生活に根差した身近なミュージアムでないと、新施設で綺麗な展示がされたとしても来館者が増えるかどうか。来館者数を増やすことを、収集・保存や学習などの機能と分けて考えていったほうがよい。
- 委員 : 他の施設との融合も考えられなくない。棟を分けるのが理想であり、間に公園施設をつくって、1日居ても飽きないような、総合施設をつくれればよいと思う。
- 事務局 : まず目的は施設整備のためのニーズの把握なので、要望になってしまうと活かせない部分がある。周辺環境や利便性も確かに必要であるが、適地もまだ検討中で、話せない状況である。今回は施設機能についてのアンケートにさせていただきたい。基本計画ができた段階で、皆様からご意見を出していただきたい。
- 委員 : Q3-3 歴史・文化で特に詳しく知りたい事柄が、かなり絞った内容になっている。もう少し具体的に挙げられるよう、その他の欄のスペースを広くしてほしい。
- 事務局 : 調整する。

4 閉会

その他

- 事務局 : 4月に市民意識調査を行う予定である。次回開催は6月を予定している。

【会議資料】

- ・資料1-1 基本理念の検討
- ・資料1-2 (仮称) 印西市歴史文化施設基本計画 中間報告(案)
- ・資料2 歴史文化施設の整備に向けた市民意識調査 実施計画(案)

令和4年度第3回(仮称)印西市歴史文化施設基本計画策定委員会会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和5年4月16日

(仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会

会議録署名委員

三石 宏